

中央検査部の特色

検体を用いた血液、凝固、生化学、感染症、細菌、遺伝子検査などと心電図、エコー、脳波などの生理機能検査を行っている部門です。医師は現在2名で検査技師は60余名で構成されています。

医師の役割は、日常的には腹部エコー、表在エコー検査報告書の作成と検体検査についての質問への回答や問題が生じた時の臨床側への対応を行っています。また定期的に試薬検討データの解析、新規検査項目の導入に向けた調査、精度管理の推進、医療安全対策などを指導しています。また医療学部生の卒業研究指導、大学院修士学生の指導も行います。

研修責任者と指導者

研修責任者：池淵 研二（部長）：東京大学卒

指導者：池淵 研二（教授）：臨床検査専門医、輸血・細胞治療学会認定医

森吉 美穂（講師）：臨床検査専門医、肝臓専門医、消化器病専門医

プログラムの目的と特色

研修では臨床検査専門医の取得を目指します。また興味あるテーマについて検体検査を用いたデータを解析し論文をまとめていくことも可能です。

到達目標

検体検査では検査の基本原理の理解、骨髄像が一人で読めるようになること、細菌検査の実践、などを目標にしています。腹部エコー検査は一人で患者を対象に実施できることを目標にしています。また臨床データを解析し、検査医学上に有用な情報として学会発表、原著論文発表ができることを目標にしています。

入局後の教育スケジュール

本人の希望を聞き、骨髄像、細菌検査、検体検査、腹部エコー検査を可能な範囲で教育できるスケジュールを立案し行います。

専門科専修医コースとしての他科研修の可能性

臨床症例を診療する他科研修も積極的に支援します。

専門科研修コース修了後の進路（具体的内容）

埼玉医科大学のスタッフとして残ることが一つです。大学病院と国際医療センターと密接に連携しており、いずれを選択することも可能です。

他の診療科の研修コース修了後に検査部でしか習得できない技術を獲得する短期研修も受け入れています。

学位取得について

検体検査データの臨床解析、遺伝子検査、エコー検査などをテーマに研究指導が可能です。

留学の可能性

学位取得後をめどに留学を勧めています。

取得可能な資格、認定医、専門医など

臨床検査専門医、日本輸血・細胞治療学会認定医

関連施設

埼玉医科大学国際医療センター中央検査部、総合医療センター中央検査部

問い合わせ先

〒 350-0495 埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷 38

埼玉医科大学病院

中央検査部 池淵 研二 (教授)

TEL : 049-276-1175

E-mail : ikebuchi @ saitama-med.ac.jp

1 年目	<p>臨床化学 (3ヶ月)</p> <p>生化学検査全般を研修します。検査の受付から結果報告までの流れを理解することから始め、主たる自動分析装置の構成・測定原理について説明できるようにします。測定値の変動要因 (溶血・乳びなどを含む) についても考察できるようにします。また、検査部が関与する糖尿病教室や NST 活動などのチーム医療にも参加します。</p> <p>ポイントオブケアテスト (POCT) (1ヶ月)</p> <p>POC で使用される機器の特徴、測定原理を説明でき、簡易血糖測定器を正しく操作できるようにします。また、病棟の POCT 機器の管理に参加します。</p> <p>血液学 (3ヶ月)</p> <p>血算盤のしくみを理解し、骨髄細胞数および有核細胞数算定を行います。末梢血および骨髄像の鏡検法、評価法を研修します。臨床検査専門医の指導下で報告書を作成します。</p> <p>微生物学 (3ヶ月)</p> <p>微生物検査の基本操作の研修を行います。グラム染色、呼吸器および消化器由来の菌の同定、抗酸菌依頼検体の取り扱いおよび Ziehl-Neelsen 染色と安全キャビネットの使用法など。また、院内感染対策室と連携して行われる ICT ラウンドに参加します。</p> <p>免疫学 (1ヶ月)</p> <p>免疫学的検査の基礎、感染症・腫瘍マーカー・ホルモン・自己抗体などの免疫学的検査の評価法の研修を行います。各種手法検査 (インフルエンザ、RS、アデノウイルスなど) を実施します。</p> <p>一般検査 (1ヶ月)</p> <p>尿検査では、試験紙法による尿定性の原理、特徴について説明ができるようにします。また基本的な尿沈渣の鑑別ができ、臨床的意義と関連付けて説明できるようにします。髄液検査では、髄液中の白血球の細胞数算定およびMP分画判定ができるようにします。</p>
------	---

2 年目	<p>輸血学（2ヶ月）</p> <p>輸血学および輸血検査の基礎について研修を行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 正しい検体採取と保存方法、および検査後の検体保管について理解する。 2. 凝集反応を正しく判断することができる。 3. ABO・Rho 血液型検査の方法・原理・手技・結果の解釈を理解する。 4. 不規則性抗体検査の方法・原理・手技・結果の解釈を理解する。 5. 交差適合試験の目的と方法および結果の解釈を理解し、安全な輸血を目的とする適合血の準備について理解する。 6. 輸血検査の自動化について知識を深め、その意義について理解する。 7. 血液製剤の種類・保管方法・取り扱いについて学び理解する。 8. 血液製剤の適正使用について理解する。 9. 輸血後副作用についての知識を深め理解する。 10. 日赤血液センターとの業務連携について理解する。 <p>遺伝子検査（1ヶ月）</p> <p>検査器具や検査機器を正しく使用できるようにします。また PCR 法について説明できるようにします。</p> <p>生理機能検査（2ヶ月）</p> <p>心電図、肺機能検査、超音波検査、脳波検査、筋電図検査などの生理機能検査の研修を行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 心電図・ホルター心電図などを見学し、検査の意義や注意点を理解し、基本的な波形の解釈ができるようにします。 2. 肺機能検査を見学し、検査の意義や注意点を理解し、基本的疾患の解釈ができるようにします 3. 超音波検査（腹部・甲状腺・心臓など）を見学し、検査の意義や注意点を理解し、基本的な画像（疾患）の解釈ができるようにします。また腹部超音波検査を行い、基本的手技や注意点を理解します。 4. 脳波検査を見学し、検査の意義や注意点を理解し、基本的な波形の解釈ができるようにします 5. 筋電図検査を見学し、検査の意義や注意点を理解し、基本的な波形の解釈ができるようにします。 <p>管理学と検査情報学（1ヶ月）</p> <p>精度管理委員会や医療安全対策委員会に参加し、検査部の運営を学びます。</p> <p>選択検査（6ヶ月）</p> <p>希望する検査領域をより深く、研修を行います。</p>
3 年目以降	<p>臨床検査専門医の指導を受け、各診療科や検査部内のコンサルテーションに応じます。また臨床検査適正化委員会や精度管理、医療安全対策活動に参加し、検査部の運営に関する研修を続けます</p> <p>原則として 5 年目に臨床検査専門医認定試験を受験します。</p>